

# 当面の事業計画の具体化

## I.くらしと産業に関する講演会・研究会・シンポジウム

### 1. CSR 研究交流会の実施

この事業については5月22日の創立25年記念事業として記念講演「行政からみたCSR活動の意義」（経済産業省）並に「わが社の重点活動報」として東日本旅客鉄道、東京ガス、中部電力、トヨタ自動車、日立製作所より発表が行われた（詳細経過報告並にくらしのレポート No.322）

下半期においてはこれを礎に次の企画を実施したい。

#### 記

#### (1) CSR 活動事例集 part IVの発刊

—詳細別項

なお、当センターは既に「CSR 活動事例集」を2004年2月、2008年12月、2010年12月の三次にわたり発刊している。

#### (2) 本書に基づき、引続き研究交流会を企画する。

## 2. 講演会の開催

### ○2014 年新春講演会 概要

政府は「女性の活躍」を成長戦略の柱の一つと位置づけた。働く女性を支援する法整備は男女雇用機会均等法や育児休業法など、一定の進展はあるが、企業の実態はなお厳しいものとみられる。

当センターは 2013 年度総会で「くらしの視点を重視した」テーマを講演会、研究会において取り上げることとした。その一環として次の企画を提案する。

- ① テーマ 「女性の社会進出を向上させるために」  
-女性の活躍をどう推進するか-
- ② 実施方法 講演会又はシンポジウム
- ③ 講師等 太田房江 氏（参議院議員）  
岡本直美 氏（日本労働組合総連合会副会長、会長代行）
- ④ 総合司会 永峰 好美 氏（読売新聞東京本社 編集委員）
- ⑤ 日 程 2014 年 1 月 21 日（火） 15 : 00 ～ 17 : 30
- ⑥ 会 場 KKR HOTEL TOKYO

### ○第 18 回くらしと産業に関する関西講演会

次のとおり企画する

- ① テーマ 「関西圏における経済動向と観光事業の展望」（仮題）
- ② 講師 中村 広樹氏 [国土交通省 近畿運輸局 企画観光部長]
- ③ 日 程 10 月 17 日（木） 14 : 30～16 : 30
- ④ 会 場 関電会館

### 3. 研究会、シンポジウムの継続

#### (1) エネルギー・環境セミナー

第164回

日時 10月8日(火) 14:00～16:00

場所 KKR HOTEL TOKYO

テーマ 「当面の省エネルギー、新エネルギー政策推進にかかる諸課題」(仮題)

講師 木村 陽一氏 [資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部長]

第165回 現地視察

日時 11月14日(木)

場所 柏崎刈羽原子力発電所

日程 貸切バス日帰り

集合時間 7:45

出発 8:00

到着 12:30 (途中昼食)

視察 13:00～15:00

現地出発 15:00～ (途中ショッピング)

都内到着 19:30

この事業のテーマとしては引き続き次のテーマに取り組む  
「エネルギー基本計画」(政府原案確定次第)  
「COP19にどう臨むか」(11月)

#### (2) 都市と交通問題研究会

下半期においては次のテーマと取り組む。いずれも講師については国土交通省より派遣される。( )内は実施時期。

第128回

日時 10月11日(金) 14:00～15:30

場所 ホテル サンライト新宿

テーマ 「少子高齢化社会に向けた交通政策について」

講師 後藤 章文氏 [国土交通省 総合政策局安心生活政策課 企画官]

以下次のテーマを順次実施する

- ・「観光立国推進に向けた最近の取り組みについて」(11月5日(火)、又は8日(金))
- ・「空港経営改革について」(12月初旬)
- ・「地域交通における新たな取り組みについて」(2014年2月)
- ・「航空路(航空管制)の動向について」

## II.くらしと産業に関する交流会、情勢収集活動

### 施設・工場視察、業際間交流会企画

#### ○第60回

沖縄電力の協力により次のとおり企画する

#### ◆ 2014年2月12日(水)

時刻	視察・訪問箇所	備考
13:00	【集 合】 新石垣空港(到着ロビー) ※昼食は各自済ませてください。	ANA125(羽田 07:50→那覇 10:40)、 ANA1765(那覇 11:00→12:05)
午後	【視 察】 石垣第二発電所 【視 察】 (石垣市内を予定) 【チェックイン】 (石垣市内を予定) 【夕食・交流会】 (石垣市内を予定)	※仮予約完了

#### ◆ 2014年2月13日(木)

時刻	視察・訪問箇所	備考
午前	【出 発】 ホテル発 【移 動】 新石垣空港→那覇空港	ANA1762(石垣 08:10→09:05)
午後	【視 察】 沖縄防衛局(嘉手納町) 【昼 食】 (近隣を予定) 【視 察】 (名護市内もしくは本部町内を予定) 【チェックイン】 (名護市内もしくは本部町内を予定) 【夕食】 (名護市内もしくは本部町内を予定)	※仮(内々)予約完了

◆ 2014年2月14日(金)

時刻	視察・訪問箇所	備考
午前	【出 発】 ホテル発	
	【視 察】 オリオンビール名護工場	
	【視 察】 安部メガソーラー実証研究設備	※仮予約完了
午後	【昼 食】 カヌチャクラブハウスレストラン	
	【視 察】 辺野古地区視察(車窓より)	
15:30	【解 散】 那覇空港	ANA132(那覇 16:50→羽田 19:00)

### Ⅲ. 国際交流の促進

#### ベトナム経済産業事情視察計画

##### 1. 視察・訪問目的

今年は日本とベトナムの外交関係が樹立されて 40 年という記念すべき年です。これを記念して、わが国では「ベトナム安全、文化推進協議会」の設立等多彩な催しが行われています。

政府も経済産業大臣の二次にわたるベトナム訪問（2012 年 8 月、2013 年 7 月）、安倍首相の訪問、首脳会談（2013 年 1 月）など日越関係強化のための政治経済交流が展開されています。

わけでも茂木経済産業大臣の訪問（2013 年 7 月）では、次にみられるような注目すべき会談内容があります。

- ・ MRJ 導入を働きかけると共に、港湾、空港等のインフラ整備事業推進で一致。また、ベトナムにおける原子力発電所建設計画について安全性を第一とした上で具体化に向け協力を加速化。
- ・ アセアン最初の地域温暖化対策を推進する二国間クレジットにかかる協力文書に署名。また、スマートコミュニティプロジェクト推進のための民間合意文書を締結。
- ・ 工業化戦略について自動車、裾野産業、人材育成における協力を深化することで合意。また、アジアで最初の中小企業海外展開現地支援プラットフォームの発足式を実施。

当センターとしましては、会員企業の発展のためにもアジア諸国についての経済、社会、文化に関して関心を高め、現状を正しく理解することが求められています。この機にあたり「成長する国」ベトナムに視察団を派遣するものです。

視察の重点としては、「エネルギー事情」（需給関係、電源構成の動向、開発・運用技術レベル等）「交通事情」（都市部の移動手段、渋滞事情、長距離輸送と高速鉄道網の必要性、可能性等）などについて実態を視察し、日本からの技術、ノウハウ等による協力関係の具体化を探りたい所存です。

なお、この企画は経済産業省、国土交通省、JETRO、全日本空輸(株)のご協力により推進されるものです。

2. 視察（日程） 出発日 11 月 24 日（日）  
帰国日 11 月 29 日（金）

3. 視察・訪問箇所

○JETRO ホーチミン事務所訪問

安栖所長より「ベトナム経済産情勢と日本企業のベトナム進出状況」  
について講話

○ベトナム商工省訪問（ハノイ）

「ベトナムにおけるエネルギー・産業事情と日本に期待すること」  
について懇談

○ベトナム運輸省訪問（ハノイ）

「ベトナム交通事情と政策と日本に期待すること」について懇談

○ JETRO ハノイセンター訪問 所長との懇談

○ タンロン工業団地視察

○ ハイフォン港湾施設視察

4. 参加者（申込者）

1. 工藤 芳郎 (一社)くらしのリサーチセンター 副会長・専務理事
2. 佐藤 良一 (株)日立製作所 渉外本部 渉外部 部長
3. 野口 貴史 全日本空輸(株) 総務・CSR 部 総務部チームリーダー
4. 牧野 敬雄 電気技術開発(株) 国際部 部長
5. 杉 行夫 JAPAN NOW 観光情報協会 事務局長
6. 矢野 義博 (一社) 日本自動車工業会 参与 国際統括部長
7. 野村 敦人 (株)文昌堂 営業第二部 部長
8. 天野 健至 (株)文昌堂 営業第二部 課長

## IV.くらしと産業に関する刊行物の発刊

1. タイトル CSR 活動事例集 part III - わが社の CSR 活動 -

2. 発刊の趣旨 現代社会は好むと好まざるとにかかわらず、政治経済、そして国民生活に関しても企業活動抜きには考えられません。生産が消費をリードし、供給が需要を上回る社会が続いており、文明の進展にも企業活動は深くかかわり貢献度も大きいものがあります。

さて当センターは創立以来、現代企業のあり方について調査・研究活動を重ねてまいりました。30回にわたる研究、交流会を企画するとともに「CSR 活動事例集」を2回（2008年12月、2010年12月）にわたり発刊するなどの実績を重ねてまいりました。

しかしながら、現代社会では金融経済が実態経済を支配するなど健全な資本主義は歪められています。特にバブル崩壊後は人間の貪欲さが露骨化し、投資と投機の混同によりヘッジファンドなどのグローバルな展開が容認されています。

周知のようにわが国の経済社会の発展は「片手にそろばん、片手に論語」を説いた渋沢栄一、公益事業に社会的責任を提唱した木川田一隆、技術革新に生涯専心した本田宗一郎、ものづくりをモットーとし「造化の神」豊田英二、光通信に賭けた男 独走の科学者、西澤潤一など先達によってリードされてきた歴史によるところ大であります。

日本企業はこうした歴史に誇りをもって混迷する社会経済の改善に立ち向かうことが求められています。

この機にあたり、現代社会における企業の役割、あり方について内外に問う趣旨をもって本書の発刊を企画するものです。

<参考>2004年経済産業省「企業の社会的責任（CSR）に関する懇談会」中間報告書より

### CSR とは

- ・ 今日経済・社会の重要な構成要素となった企業が、
- ・ 自ら確立した経営理念に基づいて、
- ・ 企業を取り巻くステークホルダーとの間の積極的な交流を通じて
- ・ 事業の実施に努め、
- ・ またその成果の拡大を図ることにより、
- ・ 企業の持続的発展をより確かなものとするとともに、
- ・ 社会の健全な発展に寄与することを規定とする概念

### 今後の方向性

- ① 国際的枠組みへの貢献    OECD や EU、APEC 等との対話の継続等
- ② CSR の理解推進        取組みは進んでいるものの（CSR 報告書等）、  
国際的な動向等への更なる理解促進等
- ③ 各種政策への反映       海外進出企業への支援ツール等

### 3. 概要

- 第1部 企業の部（20～25社）
- 第2部 行政の部
- 第3部 労働組合の部
- 第4部 学識者の部

4. 規格        AB 版    モノクロ    300 ページ前後

### 5. 原稿：

- (1) 字数    約 13,000～15,000 字（10～13 ページ程度）  
              1 項あたり（43 文字×33 行=1,419 文字）（図表含む）
- (2) 〆切    12 月 20 日（金）    10 月初旬原稿依頼

6. 発刊予定    2014 年 2 月末

## V.その他

### 1. 新入会員の承認

- ・電気技術開発株式会社

鉄道・道路・空港の交通施設をはじめ、防災無線・河川などの社会基盤整備における、電気設備の調査・計画・設計・施工監理・試験等の技術コンサルティング業務を行う。

- ・大塚製薬株式会社

医療用医薬品を中心に診断薬・研究用試薬・医療機器を製造。ほかに健康食品・化粧品も手がける。

### 2. 2014年賀詞交歓会

(1) 日時 2014年 1月21日(火) 18:00～19:30

(2) 場所 KKR HOTEL TOKYO

### 3. 第3回役員会

(1) 日時

(2) 場所